



よと館だより



Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 埋め草 ⑥

～静かに生涯を終える難しさ 尊厳死・延命治療 その2～

血管外科の専門医であった石飛幸三 Dr が都内の特養の専任医師として赴任された当初、重篤な（終末期）の高齢者（利用者）には躊躇なく入院の指示を出していたそうです。しかしある時ふと気付きました。重篤な患者で、口腔摂取が危険で難しくなった高齢者に行われている「胃ろう」や経管からの栄養分の投与は、命を長らえさせるが同時に痰や異物等の逆流による誤嚥・肺炎をおこさせる可能性も大きい。旅立ちの準備をしている身体と心にふさわしいケアは、自然な経口からの栄養と水分の摂取が最善のケアではないかと。

待機者が常に数百人という特養の常勤医が、安らかな死の迎え方について、延命治療の意味と、人としての穏やかな最期の在り様を介護現場の最前線から問題提起をされたのです。それは高齢者の看取りとは、「自然な死」をご本人も周囲も受け入れてあげることが最善のケアではないかという問い掛けでした。生きる栄養とエネルギーは口から摂る、摂れなくなった時がその方の命の最終ステージなのだと。（「平穏死のすすめ」2010.2 講談社）

少し違うのですが、私に忘れられない一つの死の記憶があります。2012年の秋になりますが、86歳でとても元気だった叔父が、新宿駅の構内で転倒し後頭部を強く打ち昏睡状態に陥ってしまいました。すぐに大学病院の救急外来に搬送され、ICUで手厚い治療を受け続けたのですが、無念にも意識が回復することはありませんでした。その間叔母をはじめ従妹である娘さん達は悲しみ、何としても回復を願って可能な限りの治療と快復を期待しました。そして点滴と輸血が続きましたが無念にも長い入院の後、叔父は帰らぬ人となりました。

亡くなる前にカソリックに入信をした叔父の葬儀は、伝統ある教会でしめやかに執り行われました。私は弔辞を依頼され、若かった頃人生の指導を受けていた思い出を中心に、心を込めてお別れの詞を捧げました。私も突然のご逝去に心乱れていましたが、実はそのお別れにデスマスクと対面したとき、愕然としたのです。それはあれほど端正であったそのお顔が点滴治療の結果とありますが、パンパンに浮腫み、お月様と見間違ふような真ん丸なお顔に変形していたのです。手厚い治療も効果を上げず、回復することなく結果的には延命の治療となり、この様なお姿になったのだろうと推察しました。意識も戻らずこの様なお姿で逝かれたご本人はさぞ辛く無念だっただろうと、亡き方の心を慮りました。

その時深く感じたのは、死に逝くときにも当事者であるご本人の心に想いを巡らし、穏やかに、美しく送ってあげたい。死という人間には贖えない事柄にも、私たちはその運命を受け入れ、逝くときであってもその人自身の尊厳を大切に考えてあげたいと思ったのです。

理事長 橋本正明

事業本部長メッセージ

10月から酒税が上がるという報道。「えっ、」大量消費者のこの俺に相談もなく何たることだ。新ジャンルと呼ばれる第3のビールは500mlに換算するとおおよそ14円/1本の値上げに相当する。毎夜のごとく6本パックを買い入れる身の上にとって「買いだめ」という行為を今せずして何時するのだ。ケース買いをすれば14円×24缶/1ケース=336円の節約になる。そういえばこれまで雑貨を置かれていた売り場は床積みのビールが林立していたなあ。

かくして、賞味期限と懐の双方と協議の末、値上げ前日までに数次に分け7ケースの買いだめを実行。しばしの安堵と達成感、妙な反省に心がかき乱される。廊下の在庫が消え果てるまでビール売り場には寄り付かない。暫く新しいプライスには触れたくないからなあ。



高年齢事業本部長 旭 博之

事業本部情報

🌿 児童事業本部 🌿

怪我などをしたときに手当するという言葉を使います。転んだ子どもの膝を消毒したり、絆創膏をつける、そんな手当をこれまで何回してきたことでしょうか。私が仕事を始めてすぐの頃、子どもが学園の門を閉める時に手をはさんでしまいました。先輩職員の方々が手早く応急処置をし、病院に行きました。幸いにも大事に至らず範囲の広い切り傷のような状態でした。その日から高橋田鶴子先生が毎日キズをみてその子どもの手当をして下さいました。きれいな水で丁寧にその傷口を洗いながら子どもにはその日にあった事をさりげなく聞き、一緒にいる私には昔やけどをした子どもに馬肉で熱をとり、痕にもならず治ったことなど教えて下さいました。こうして私は大事な手当の意味を教えて頂きました。傷をみながらその人に寄り添うこと、丁寧に心をこめて向き合うこと、そして信じること…治ると信じる、その人を信じる、そして自分を信じるということも含まれていたと思います。このような事を教えて頂いたことに感謝するとともに、少しでも伝えていく事をこれからも心がけたいと思います。
(ワークセンターまことくらぶ 施設長 阿久津嘉代子)

🌿 保育事業本部 🌿

9月、職員や保護者の方が安心につながるようエントランス手前に手洗い用の流しを仮設しました。洗面台に給排水ホースを接続した簡易な物ですが、散歩帰りの0歳児のお子さまたちが興味を強く示しました。ホースの先を持ち上げてまるで消防士、その場を離れがたかったお子さまもいたようです。ところで、モンテッソーリ教育法の考える活動では、子どもが教具と呼ばれる道具を選び満足するまで活動できます。活動の繰り返しは子どもの成長を助け、子どもの内面に由来する規律を生むと考えます。教師の役割の一つは、子どもをよく観察して子どもの生命の欲求にあった活動を環境の中に用意してあげること。モンテッソーリ教育法では水を扱う活動もあります。園長はお子さまだけでなく保育士等も応援したい。お子さまには魅力的だったかもしれないホースは、後日結束バンドで枕木に固定してしまいました。体調に気をつけ、色づく葉、虫の音、澄み渡った空など深まる秋を楽しみましょう。
(至誠ひの宿保育園 園長 高橋滋孝)

🌿 高齢事業本部至誠ホーム 🌿

10月2日の夜に発覚したグループホーム職員1名の新型コロナウイルス感染。翌朝からは保健所の現地調査、濃厚接触者に該当となった入居者18名・職員7名へのPCR検査、入居者・利用者家族への報告、国分寺市・協力医療機関への報告、法人内部への報告、施設内業務の感染症発生時対応への変更、出入り業者との調整、外部への情報公表準備といったものが気持ちの整理をする間もなく一気に押し寄せました。そしてミンナ全体が不安や心労に押しつぶされそうになりました。しかし、そんな中でも職員皆さんのひたむきさ・実直さ・優しさが「皆で支え合おう！」という空気を生み出し、何とかこの難局を乗り越えることができました。幸いにも、その後検査対象者は全員陰性で新たな発症者も出ず収束に向かい、現在は通常業務を再開しています。今後も油断はできませんが、今回

の出来事を通じて改めて新型コロナウイルスの怖さを痛感するとともに、職員皆さんの底力と至誠学舎立川の強みを実感しました。法人関係の皆様方からも応援の声を多数いただき励みになりました。皆様のご支援・ご協力に心から感謝いたします。ありがとうございました。

(至誠ホームミンナ園長 諏訪 逸)



本部事務局だより

(ホセ・ムヒカ)

コロナ禍の中で、アメリカでは大統領選挙が行われ(この号が出る頃には結果は判明しているだろう)、日本では首相が交代した。そして10月20日にウルグアイのホセ・ムヒカ上院議員が静かに政界からの引退を表明した。ウルグアイでは国民の人気があったホセ氏は南米ウルグアイの元大統領で、世界で一番貧しい大統領と呼ばれた人である。持ち物は、小さな農場とたった2間の自宅トラクター、そして友人から貰った中古のフォルクスワーゲン・タイプ1だけである。公邸には住まずネクタイもしない。報酬の9割を寄付し質素な生活を守り抜いた。しかし、その半生は波乱に満ちている。大学卒業後、反政府活動に参加し、4度逮捕(内2回脱獄)され、13年間収監されてた。出所後政治団体を結成し、下院議員となり、ついに大統領となったのである。大統領退任後2016年4月に来日して講演も行っており、「金持ちは政治家になってはいけない」「国を治める者の生活レベルは、その国の平均でなければならない」と政治家としての信念や、「私は貧乏ではない。質素なだけ。貧乏とは、欲が多すぎて満足できない人のこと」等々、消費主義は人を幸せにしないと語っている。これらの発言は「世界で一番貧しい大統領」として出版されている。そして彼は「本当に日本人は幸せなのか？」と問うている。
(法人事務局長 野島 忠幸)

(編集後記)日本のディズニーは7月に営業再開を果たしましたが、ショーやパレードができなくなり、ダンサーキャストを配置転換するなどの対応。休園が続いている米ディズニーでは2万8千人の労働者を解雇。ディズニーでさえコロナ前の状態に戻ることは簡単ではなさそうです。(小)